



生乳生産 本州一



全国でも有数の酪農のまち・那須塩原。しかし、このまちを代表する基幹産業「酪農」も厳しい経営環境に直面しています。今回の特集では、酪農の現状について考えるときともに、身近なところで作られている牛乳・乳製品を紹介します。

厳しさを増すこのまちの酪農

「生乳生産本州一のまち」。このキャッチコピーを皆さんも一度は聞いたことがありますか？ 本市の生乳産出額は全国では第四位。北海道を除く本州では二位以下を大きく引き離してのダントツの第一位に輝いています。

そんなこのまちの顔ともいえる産業「酪農」は今、厳しい経営環境に置かれています。

近年の人口減少や牛乳消費量の低迷、配合飼料価格の高騰による生産コスト増、担い手の高齢化、環太平洋経済連携協定(TPP)の影響…。これらの厳しい経営環境を背景に、本市の酪農戸数は10年間で130戸(約3割)も減少しています。このまま酪農戸数が減少すれば、生乳生産量の減少だけでなく、耕作放棄地の増加など、地域全体の衰退にも影響を及ぼしかねません。

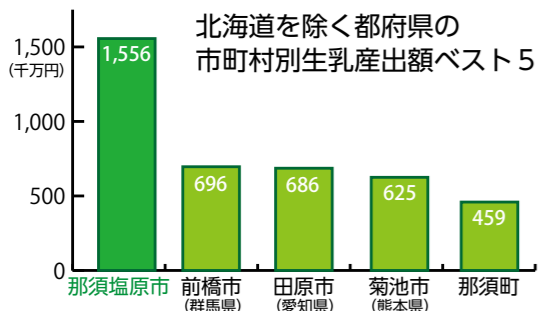
酪農の魅力と可能性

酪農全体に暗い影が差す一方、希望の光も見えています。

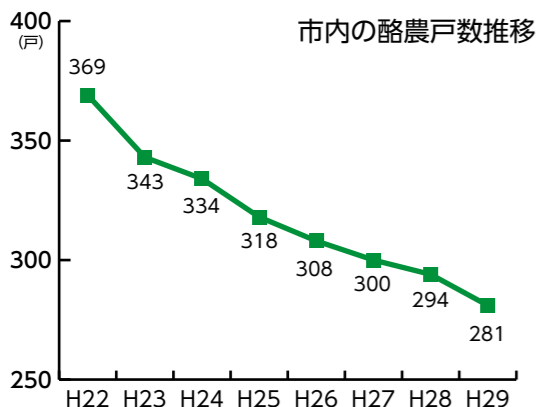
本市の酪農家に対する意識調査の結果、81%の酪農家が、酪農の魅力とやりがいを感じていることが分かりました。その理由は、「生き物や自然と向き合うことの楽しさや大切さを味わえる」、「喜びを味わえる」、「食べ物・健康へ貢献できる」、「収入面での見返りがある」などさまざま。また、機械化による労働負担の軽減や大規模化により、一戸当たりの飼育頭数や生乳生産量は年々増加傾向にあります。

畑には、人の背丈を優に超える牛用のトウモロコシや、刈り取った牧草をまとめた白いロール。季節によって姿を変えるこのまちならではの日常の風景です。そんな風景の裏側で、酪農家や酪農組合などは、日々厳しい飼養管理を行うことで乳質向上に取り組み、安全安心な生乳の生産に努めています。また、その生乳から作られる牛乳・乳製品といった魅力ある地域資源は、地域全体を活性化させる無限の可能性を秘めています。

私たちが、そして、このまちを支えている牛乳・乳製品に、改めて注目してみましょう。

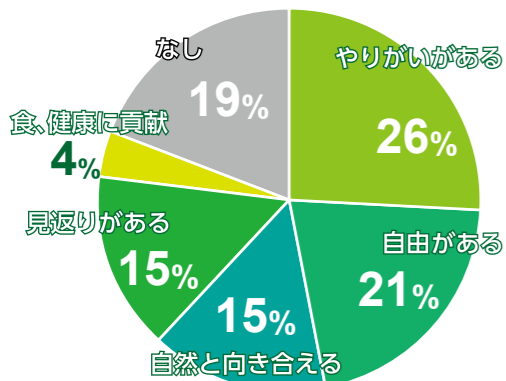


出典：農林業センサス「平成28年度市町村別農業産出額」



出典：家畜保健衛生所定期報告

酪農の魅力意識調査結果



出典：平成28年3月農業経営に関するアンケート調査(那須塩原市)